山弓連
平成12
第2号

やったぜ!! 吉田高
関東高校大会で団体優勝（決勝は12射皆中）。。。。

6月3・4日、小瀬武道館で開催された、第44回関東高校大会には、関東八都県からの代表が男女各36校、計72校が参加して、関東の覇権をかけての熱い戦がくりひろげられた。特にこの時期の大会は、夏の三国体（国体関東予選）を占う、いわば前哨戦という意味でも、注目されている大会でもあった。その中で吉田高がみごと男子団体優勝を果たしたのは、まことに心強い限りであった。　大会経過は次の通り。

○男子団体戦

予選24射で上位16校通過。山梨勢では、吉田18中（5位）甲府工16中（14位）が通過したが巨摩16中（競射敗退）以下は落選。

決勝トーナメント一回戦～甲府工⑨対7東京八潮、吉田⑥対6（競射③対1）千葉匝瑳でともに勝ち残り。準々決勝～栃木鹿沼⑧対8（競射②対0）甲府工、吉田⑪対10栃木足利工大商となり、吉田勝ち進む。ここから吉田の快進撃が始まる。準決勝は最大の強敵鹿沼とあって事実上の優勝戦と目されたが、吉田11対11（競射2対2・③対2）栃木鹿沼と接戦を制して、甲府工の仇をうつと共に優勝戦に駒を進める。

いよいよ決勝戦。～吉田の3人ますます快調。2射目で4中全員そろえて、ほぼ勝ちを決定づけた後も、気を緩めることなく、パーフェクト12中でみごと優勝。12対6。

○女子団体戦

山梨勢の予選通過は吉田13中（15位）のみ。12中（17位）が3校あったが、わずかに及ばず。

トーナメント一回戦～吉田⑦対5埼玉浦和

二回戦～東京国学院7対7（競射2対2・1対1・③対1）吉田となり惜敗。

○男子個人戦（射詰）

予選での8中4名、7中12名（遠近）による競射の結果、吉高の渡辺が8位入賞。

○女子個人戦

8中4名（射詰）7中10名（遠近）による競射の結果、石和高の大久保ザンネン。

○技能優秀賞

審判員による射型採点の結果、吉高男子が団体賞を、渡辺幸太選手（吉田）が個人賞に輝やいた。　オミゴト。

東日本女子大会

福島県で開催された東日本女子大会に、成年女子国体強化選手が、練習成果の腕だめしに参加し、有段者の部で、各県の強豪と戦って好成績をおさめた。

試合は、まず予選4射で、3中以上を通過とし、通過者による射詰決勝で優勝を争った。本県選手で予選通過したのは保坂亜紀4中、水上梨沙3中の2名。決勝戦でも健斗し、水上が3位に、保坂が6位に入賞した。りっぱ!! この勢いを、国体の競技にもつなげてほしい。

尚、余談ながら、山梨が大きな拍手を受けたもう一つの場面があった（これは付添の監督の話）。山梨はエントリーが遅かった為、保坂が最後の立ち。しかも一人だけの立ちとなった。そこで悠揚迫らず、みごと4射皆中。しかも射型は完璧の出来とあって、満場から大拍手。「まるで納射」とほめられて、いい気分だったという。

おめでとう

新錬士 蒔田裕雄さん

永年に亘る弓道振興への功績が評価されて、五月の日弓連審議会で推薦された。

戦後間もない昭和25年、日置流竹林派入門以来50年。ひたすら修錬に励み東八地区の重鎮として活躍をつづけてきた。その間一宮町部長、東八支部長等を歴任して、県下最大の東八支部を育てる原動力となった。現在は、県連監事。昭和2年生まれの73才。一宮町で千米余で特産の桃やブドウを作っている篤農家でもある。

高校総体　吉田 桂がV

5月11～12日行われた県高校総体では、団体戦男子吉田高が、女子桂高がそれぞれ優勝した。また、個人戦では男子は今津幸貴（巨摩高）が11中で、女子は深沢琴我（白根高）が10中で優勝した。準々決勝以降の試合経過と、個人上位入賞は次の通り。

○男子団体

・準々決勝

巨摩12－8石和　吉田13－12北富士

桂10－3甲東　上野原15－10山梨

・準決勝

吉田17－15巨摩　上野原11－8桂

・三位決定

巨摩15－8桂

・決勝

吉田18－12上野原

○女子団体

・準々決勝

塩山13－9峡北　巨摩6－3山梨

甲商8－4昭和　桂11－6甲府西

・準決勝

巨摩12－7塩山　桂13－10甲商

・三位決定

塩山10－6甲府商

・決勝

桂13－9巨摩

○個人戦

	男	女
一位	今津（巨摩）11	深沢（白根）10
二位	寧（吉田）10	吉原（峡北）10
三位	小林（石和）10	白須（吉田）9

中学選手権大会

6月11日（日）武道館で開催。県下7校の中学生選手が技を競った。成績次の通り。

○団体戦（36射）

種別	順位	チーム	的中	選手
男	一	櫛形中B	19	中村・斎藤・神田
男	二	増穂中B	12	有泉・細野・山下
男	三	石和中A	11	小林・筒井・金子
女	一	石和中A	16	荻野・金井・菊嶋
女	二	櫛形中B	14	丹沢・小林・関部
女	三	櫛形中A	10	古矢・河西・山本

○個人戦（12射）

種別	順位	選手	的中	学校
男	一	中村直人	8	櫛形中
男	二	内藤卓	6	甲府南中
男	三	山下敦史	6	増穂中
女	一	菊嶋秀奈未	6	石和中
女	二	金井久美子	6	石和中
女	三	関部亜衣	5	櫛形中

若い芽の大きな成長を期待する。

全国高校総体（インターハイ）県予選（よせん）
吉田（男）・上野原（女）が代表権

6月24・25日に開催。1チーム5人・1次予選40射で上位8校を選び、更に二次予選20射で、一・二次合計的中数により上位4校を選んで、決勝はリーグ戦（20射）で優勝を決めるという方式。経過次の通り。

○男子団体

・予選最終成績

巨摩46、北富士44　甲工43　吉田42

石和38　上野原38　韮崎37　峡北37

・決勝リーグ

吉田16－14巨摩　巨摩19－16甲工

北富士16－12甲工　吉田16－12北富士

甲工16－15吉田　北富士13（遠近）13巨摩

（順位）一位はインターハイ代表

一位	二位	三位	四位
吉田2勝1敗（的中47）	北富士2勝1敗（的中41）	巨摩1勝2敗（的中46）	甲工1勝2敗（的中44）

○女子団体

・予選最終成績

桂35　上野原32　石和31　吉田30（遠射勝）

昭和30（遠射負）巨29　甲商26　甲陵18

・決勝リーグ

桂11－7吉田　上野原11－11石和（競射勝）（競射負）

石和12－11桂　上野原15－12吉田

吉田10－9石和　上野原14－12桂

（順位）一位はインターハイ代表

一位	二位	三位	四位
上野原3勝	桂1勝2敗（的中34）	石和1勝2敗（的中32）	吉田1勝2敗（的中29）

○個人戦（●印イ・ハイ代表、国体県代表候補）

	男	女
一位	●臼井優太（昭和）16	●古屋理恵（昭和）14
二位	小野勝孝（吉田）15	●大久保涼子（石和）13
三位	●新海秀人（峡北）14	山口知世（上野原）12

全日本選手権　関東選抜　県代表決まる

5月28日（日）両大会の県代表を決める為の、二次選考会を開き、「的中、射型採点」の総合点数により、次の通り県代表を決定した。

○全日本選手権関東予選出場者

（7月23日に横浜で開かれる関東予選で5位以内に入れば関東代表となる。それ以外で県内最高点の一名が県代表として本大会に出場できる。）

・男子　佐野辰巳、松田振明、望月勝男
　綿奈部博史

・女子　小林弘子、望月孝美、古屋明子

○関東選抜選手権大会出場者

（11月12日に千葉で開く。右大会の県代表）

・称号者　西海泰弘、小林弘子、不動田光照、
　綿奈部博史、白須吉人

・有段者　中込実、渡辺元樹、桜井健三、
　河西宏斉、木村竜平

関東連合審査

5月14日（日）武道館で行った、東京山梨連合審査では93名受審し、その内、8名が五段合格した。山梨では次の2名が、日頃の修錬を生かしてみごと栄冠を得た。おめでとう。今後の発展を祈る。

桜井健三（北巨）　小林睦美（旨）

追悼射会

故深沢寛教士七段を追悼する為に

（去る3月8日逝去）地元3町（増穂、鰍沢、中富）主催で6月11日に追悼射会を行った。会場は、故人ゆかりの殿原弓道場。参加者40名。遺族を迎え、遺影の写真と、故人愛用の弓・矢・弽を飾った中で、鰍沢町長と、安藤県連会長の挨拶のあと、矢渡し（木村秀太郎範士）、一つ的射礼（3町の代表3名）持的射礼（増穂代表5名）を行い、引きつづいて、参加者全員の一手演武を行った。殿原の空に、20年間、華やかに輝やいて、そして突然消えてしまった星を偲んで、しみじみとした一日であった。

あとがき

書き終えて気がついたら、今号はまるで高校・中学特集号のようになってしまった。しかし、まあいい。若い力が育って世代交代するのは世の習い。と考え直して自らナットク。若い芽を育てることに、ご協力下さい。